Southern Osaka Advanced Medical Information Center News

そあみっく 62

令和2年3月31日(火)発行　第62号　　労働者健康安全機構　大阪労災病院

新病院完成に向けて

眼科部長／副院長
恵美　和幸

大阪労災病院で働き始めて気付けば30年が経ち、昨年3月末日に一度定年退職し、4月よりほぼ同じ条件で再度勤務を続けることになりました。仕事内容は変わらないのですが、ひとつの節目を迎え、再スタートという新しい気持ちで励んでいく所存です。

若い頃にできることと年齢を経た今の自分にできることは全く違うように思います。

今だからこそできることを模索しながら、さらに進化を続けられる自分でありたいと思っています。

さて、今年はオリンピックイヤーです。「Discover Tomorrow～未来（あした）をつかもう～」これは東京オリンピック誘致時の国際スローガンで、ここには3つのコンセプトが含まれているそうです。「すべての人が自己ベストを目指し」「一人ひとりが互いを認め合い」「そして未来につなげよう」ということで、それぞれ、克己心、多様性と調和、未来への継承を表しているそうです。いよいよ新病院完成まで2年、グランドオープンには4年となりましたが、我々大阪労災病院で働くスタッフ一同にも相通じるコンセプトであると同時に、わたくしの専門である眼科手術に関しても同様です。

日々の手術・診療に常にベストを尽くせるように個々が自己研鑽し、院内のスタッフ間の連携はもちろんのこと近隣の病院やクリニックの先生方とも地域連携しながら、より質の高い医療を滞りなく提供できるよう努力し、新しい病院へとつなげていくことが大切だと思います。

働き方改革で残業削減が声高に叫ばれる昨今、医療現場にも改革の波が押し寄せてきました。今後はますます、限られた時間の中でいかに効率よく質を落とさずよりよい医療が提供できるかが求められます。そのためには一人ひとりが高い志をもち、未来につながるような有意義な仕事ができればと思います。

これからも南大阪地域の中核病院として、より良い医療を提供できるように頑張っていく所存ですので、今後とも皆様方には温かいご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

職場紹介　防災・減災の取組みについて

救急部部長／副院長
川端　正明

次の東南海、南海地震（海溝型）は今世紀前半にも発生する状況にあるとされていますが、過去の事例によると、西日本では、東南海、南海地震の前後に地震活動が活発化する傾向が見られるようです。上町活断層の直下で大規模な地震（内陸直下型）が発生した場合、被害は甚大なものとなることが予想され、1995年1月17日の阪神淡路大震災一昨年6月18日の大阪北部地震などが脳裏に思い浮ぶのではと存じます。

地震時の対応として、まず机の下などの生存空間に逃げ込み自身の身の安全を確保します。地震の揺れが収まった後、各自アクションカード*1に沿って①患者・職員の安否確認、②重症患者の機器作動の確認、③被害状況の把握を行います。それらの情報を指揮命令系統の中心である「災害対策本部」に伝達し、本部長が重要な決定(傷病者受入・全病院避難など)を行う手順となっています。

被災した病院で業務を継続するためには、院内隅々からの情報(報告)が必須となります。発災から1時間後までの災害対策案が本年度中にほぼ出揃い確定します。各病棟、部門・部署ごとの「災害発生時マニュアル」および「フェーズ0(発災直後～1時間)のミッションシート*2」が作成されており、これを元に一部部署では災害訓練が実施されました。その際「災害発生時報告チェックリスト：即時報告用および2次報告用」の記載訓練も行いました。さらに本年12月、インターネット・スマホを利用した安否確認システム(アンピス)が導入されました。これによって全職員の医局・部門・部署ごとの安否情報を一括管理できるようになります。発災1時間以内に、院内患者・全職員の安否確認、被害状況、各部門、各部署の機能状態のすべての情報が災害本部に伝達されることを想定しています。

しかし、ここに大きな問題点があります。通常一日の多くは時間外となり、この時間帯に震災が発生すると、院内勤務者は、幹部職員等は不在となります。そこで、院内職員がパニックから立ち直り「患者の生命維持のための最低限の医療」を遂行しながら、災害対策本部を立ち上げることができるように「新たな災害訓練」を計画しています。収集された安否情報、被害状況、各部門・各部署の情報を、様々な連絡手段を用いて災害対策本部のメンバー(病院長・副院長など)に報告・連絡・相談を行い、事前に準備しておいた「判断基準」をもとに重要な決定が行えるようシステムを構築して参ります（大阪府対策本部・堺市立総合医療センターとの連絡には衛星携帯電話を使用)。

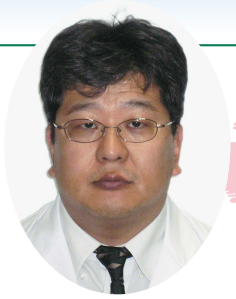
この一連の流れを理解しておくためにも、本年度中に災害対策本部のメンバーに対する「情報管理」訓練を予定しています。「平時にできないことは災害時にできるはずがない」と言われているように、事前に「上手くいかない」体験をしておくことが目的です。「上手になるための」訓練ではなく、失敗を通して災害対応の「仕組み」を理解することが重要なのです。「防災」の訓練とは、「減災」への準備であり、万一被災した時、病院を再機能させる「内部対処」の方策であると思います。

市町村災害医療センターの指定を受けている大阪労災病院は、発災時には地域の医療拠点として、「患者の受入れ」、「災害拠点病院との連携」、「医療救護班の派遣」などの責務があります。当院は、これからも地域の医療機関の皆様と密接に連携しつつ、万一の災害時に備え着々と準備を進めていく所存であります。今後とも皆様方には温かいご支援ご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。

*1アクションカード：パニックからの回復を目的に、「自分が今何をすべきか」を記載したカード

*2ミッションシート：発災後、「各職員が何分までに何をすべきか」を記載した用紙

職場紹介　大阪労災病院のACLS講習会



麻酔科　第二部長
松浦　康司

ACLS (Advanced Cardiovascular Life Support：二次心肺蘇生法)とは一般的に二次救命処置の略称です。あなたはもし大切な家族や患者さん、もしくは道行く人々が急に目の前で意識がなくなり心肺停止状態になったらどうしますか？すぐに救急車や応援のスタッフを呼ぶでしょう。ではそのあと応援が到着するまで、院内では医者が到着するまで、何をすれば助けることができるのか？講習会ではそういったことを学ぶ機会です。我々医療従事者及び病院で働く人々はそういった状況に遭遇する可能性は圧倒的に高いと思われますし、現在は医療訴訟の社会であり、心肺停止状況を把握できていて何もできなければそれは訴訟対象になってしまうかもしれません。しかし経験しておかないと医者でさえそういう状況は慣れていないので直ぐに迅速な対応ができないのです。教科書には急変時対応処置は記載されていますが、実際そのような状況で教科書通りの行動ができますか？そこでACLS講習会では主にシナリオを使用して実際の状況でどのような行動をしていけばいいのか？をみんなで考え実行していきます。それは決して1人で行うものではなく集まった全員で協力して解決していきます。要するに救命処置を体で覚えていくことになります。危機的な状況では皆が同じことをすれば非常に効率が悪化しますのでリーダーを決めて指揮系統を確立していきます。講習会では午前中に心肺蘇生に必要なスキルを学んでいきます。例えば胸骨圧迫（昔は心臓マッサージと呼んでいました）の効果的なやりかたや気道確保の方法、またAED（Automatic External Defibrillators：自動体外式除細動器）の仕組みとなぜAEDが必要なのか？を簡単な心電図波形を使い学んでもらい、院内ではAEDより除細動器を使用することになりますので実際に除細動器を操作してもらいます。その後シナリオで実践していくことになります。

それらを教えていくのは素人のインストラクター達ではありません。救急医学会もしくは大阪府医師会の認定を受けたインストラクター達が中心となって教えていっています。受講者へアンケートを毎回取っていますが、実際にシナリオで覚えることが好評です。現在我々が主催する『大阪労災病院二次救命処置コースG2015』は 皆様のご協力のもと第73回を数えるまでになりました。研修医、看護師、救命士、病院職員と様々さ職種が参加してくれています。我々の目標は院内すべての人が受講すること及び100回記念を無事に迎えることです。是非、医療従事者としてのスキルアップに参加してください。お待ちしております。

基本理念

誠実で質の高い医療を行い
　すべての方々から選ばれる病院に

基本方針

1. 地域と連携し地域に信頼される急性期医療を行います
2. 高度で安全な医療に全力をあげてとりくみます
3. 患者さまの立場と権利を尊重する医療に努めます
4. 勤労者医療を担ってこれを推進します
5. 働きがいのある職場づくりを推進します

トピックス 増改築工事計画が動き出しました!

今回は、当院の増改築工事の進捗状況をお知らせいたします。

当院の増改築工事計画は、平成２８年の基本構想から始まり、段階的に基本設計、実施設計のプロセスに取り組んでまいりました。

その間には、病院機能の見直しや医療制度の変遷等があり、部門によってはレイアウトの見直しが行われるなどの紆余曲折を経て、ようやく令和元年９月に病院工事業者が決定し、実際の工事が動き始めました。

工事着工に際しては、工事が滞りなく、無事故で安全に進むよう病院幹部をはじめ、設計業者、施工業者の参加による「安全祈願祭」を開催いたしました。

用度課長
江藤　高秀

現在は基礎工事を着々と進めるとともに、新病院のテーマである診療機能の拡充（手術室：13➡16室、内視鏡室：5➡7室、外来化学療法室：20➡31ベッドなど）及び、病院利用者の利便性向上(駐車場、駐輪場を拡充するとともに路線バスの敷地内への乗り入れ検討)をめざし職員一丸となって新病院竣工に向けて取り組んでおります。

安全祈願祭（穿ち初めの儀）令和元年１０月

工事現場状況：令和２年１月

皆様の提案を取り入れるための「提案箱」を設置しています。

積極的･建設的なご提案をお願い申しあげます。

ご提案先:総務課

提出方法：①投書の場合
総務課入口に設置してある「こうしたらどうや提案箱」まで

②郵送の場合　住所：〒591-8025 堺市北区長曽根町1179番地の3
大阪労災病院 総務課 あて

③メールの場合　E-mail:soumukatyou@osakah.johas.go.jp まで

トピックス 新病院部門配置計画

PH1F	EV機械室		
10F	病棟、講堂、職員研修室		
6F～9F	病棟		
5F	病棟、人工透析室		
4F	病棟	発電機室、変電室	機械室
3F	ICU、CCU、HCU、心臓血管診察室、病理診断、MEセンター	手術室、中央材料室	大ホール、会議室、ボランティア室
2F	外来化学療法室、薬剤部門、検査部門、売店、イートインコーナー、当直室、洗濯室	外来診療（腎臓内科・消化器内科・消化器外科・腫瘍内科・糖尿病内科・循環器内科・精神科・眼科・歯科口腔外科・麻酔科・ペイン麻酔科・心臓血管外科）、健康診断部、リハビリ部門、治療就労両立支援センター	院長室、副院長室、事務局長室、事務局次長室、総務会計用度課、看護部長室、看護師長室、会議室、更衣室
1F	総合受付、救急室、内視鏡室、メディカルサポートセンター、医事課、栄養管理室、解剖霊安室、守衛室、中央監視室	外来診療（小児科・産婦人科・乳腺外科・呼吸器外科・整形外科・形成外科・脳卒中内科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・耳鼻咽喉科）、放射線部門	医局・食堂
	新病院棟（高層エリア）	新病院棟（低層エリア）	リハビリ棟（改修）

工事が順調に進めば、新病院の建物竣工は、令和3年10月頃の予定であり、それまでは騒音や工事車両の出入り、また駐車場の段階的な変更等でご迷惑をおかけすることとなりますが、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

- 令和３年 10 月頃　新病院本体竣工
- 令和４年　１月頃　新病院オープン
- 令和４年　２月～　健診棟改修着工（一時的使用）
- 令和４年　５月～　リハビリ棟改修、既存建物解体、外構整備工事
- 令和６年　６月　グランドオープン（外構整備工事完了）

新病院　鳥瞰図　令和６年６月予定

トピックス 大阪労災病院ホームページリニューアル！

循環器内科部長／副院長
西野　雅巳

令和に入り、以前からの課題のひとつであった大阪労災病院のホームページをリニューアルするプロジェクトが持ち上がりました。ネット時代に突入し、多くの方がネットで情報を得る時代、当院のホームページは10年前に立ち上がっただけでかなりスクロールしないと目的のところに飛んでいかず、内外から種々クレームも来ていました。そこで10年ぶりに予算もおりて、ホームページ会社も一新し、新しいホームページを立ち上げることとなりました。とにかく前のホームページは探そうとするとかなり下までスクロールしないといけないので、見にくく探しにくかったのとスマートフォンにあまり対応していなかったというところがあり、この2点を中心にホームページ会社の方と相談しながら作業を進めていきました。令和2年2月中旬に前のホームページ会社との契約が切れるということで半ば滑り込みで作業を行い、まだ完成形には至っていませんが一部のOBの先生方や医師会の先生方からはおおむね好評を得ているようです。まだ1ページ目も完成には至っていませんので今後、どんどん改良が加えられていく予定で、より見やすいホームページをめざしたいと思っております。ある日に内科外来に呼ばれて撮影するからと写真を撮られたのが1ページ目に載ってますが小生の希望でもなんでもなく著作権 or プライバシーの侵害？と思ってますがもうすぐまた当院の売りである「ハートセンター」「がんセンター」などが動いて選べるようになる予定なようなのでまた見ていただければ幸いです。現在はまだ見切り発進状態で今後、進化していく予定なのでまた機会がありましたら大阪労災病院のホームページをときどき覗いていただければ幸いです。

大阪労災病院はご存知の通り、ホームページだけでなく病院そのものももうすぐリニューアルいたします。現在、工事が順調に進み、現病院の東側にはようやくその基礎ができつつあります。堺の医療の中核のひとつとして信頼できる病院をめざし、今後も努力していく所存ですので今後ともご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

編集後記

この原稿を書いているのは 3月初旬です。今も刻々と、新型コロナウイルスに関する情報が更新されています。このような感染症や心肺蘇生のみならず、自然災害など危機管理対策（発生前の備えや発生後の対応・復興）を講じておくべきことが山積みのような気がしています。当院も頑張っています。行政にも力を尽くしていただき、4月にはコロナが終息へと向かっていることを願っています。